改正指子筌門百番

# 拙子序

拙子は筆を執りて書を学ぶ者なり。拙を以て拙を学ぶ者なり。拙にして学ぶ者は拙を以て拙を学ぶ者なり。拙を以て拙を学ぶ者は拙を以て拙を学ぶ者なり。拙を以て拙を学ぶ者は拙を以て拙を学ぶ者なり。拙を以て拙を学ぶ者は拙を以て拙を学ぶ者なり。

ばし給ふ諸子を立給へ
ばなをなくなりて世界
有生も世間なる物の人数
なをなほさず屋を舞車
撰者の寄とやいふ人々
寄をもとめ給ふとして物語



ばい勤をすれども世に
用ひられず孟子の雖
ども人民を養ふ事を
源とし故物語を
建しめんと思ひぬ
撰者て伯夷
傳を作へ一世の
人を

拍子の一部分をめとる
拍子の型と名し弱め
四拍二ツ百拍子は
唐薬　田五吸拍

貴重堂
高橋

地拍子規矩の事

一うち考ひ考ひ考よ拍しをそくらる
拍使文句をあ七あ七とあをり例
あ七合きて十二の文字よ百考れ拍
子八ツ成切合をうう又十二のり字
ふ足の所をうひあ〜はちぐ発よ

たゞこのうけゞゝをりて文字の数を
合たる面ゞを拍子器とかゝ
●○ ●○ ●○ ●○
あくまをたらふくもをつの
れけ十二の文字ハツは拍子を切合に
又○けゝ下ハ間ゝ拍子・けゝ下ハ拍子は切
ゝり工夫してすは法を定るし列ず地と



いふ拍子は起りを也拍子を用ゝ拍
子はゞゝてゝゝあやをあをゝす
なき伊ゝ文字のをふ定ゝ有ゝて
引ゝゝ○武ゝゝ面ゝ又ハゝをゝこび
あゞゝして拍子乃百合をゝうけ
かゝの拍子などゝ行をゞゞ落けゞ面ゞゞ

まことを割あをるあり別法ごとに
合戸地拍子うちゆう方ふ當に
△代戸　大法を
〇代戸　小法を
右戸のうちゆへをとりんじて
ものうしをうつあり おし少る不



乃拍子をかけ地　斤地　引とり
ヨクリ代曰ツの外ハふ用唯地拍
子のもうしむ
一拍子地とうゆうハ先文句の指合乃
事を改先又戸の事をうく見
定め文句をうしひ戸をあらんか地ハ

おゝ地ヲクリハらふと拍子ぬすぎを社
うら笑ゆ〜〜拍合の事を除らも
拍子をのをんぐ〜笑えり
○おゝ地又三ツ地とゝふ初二字目うり
大ぎゝ行ぎうあた
一あ△陶を△ら△ふ△く△りゝ△つ△の

○川取かの字大ぎゝ社あうり取
きどゝ小ぎゝ引とるあり
一ヤ△み△ゑ△か△ゐ△ゝ　一八尺　一ストル　一ニ　此おゝ地
○斤地又一地ゝ斤いふゝ字大ぎゝの
行うゑゑきどゝ小ぎゝよ取りて
大ぎゝ一ツよ笑ゆ地あり

一そ△もゐ(ゑ)しをそそき

○ヨクリな地の紙ふつゝ二ツおる

一△まて△とい(ゐ)ふこ(ゑ)ゐ(も)ヨクリ(ゐ)ゐ(か)と(を)を

おゝ由ゐゐゐ(ゐ)ゐ(ゐ)ゐ(ゐ)

ヤヲノ万ニ字用ヨあり

一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ

ヤ△ヲを△らふくりそつの

ヤヨハノ万かゝら字よりあり

一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ

ヤ△ヲヨハ△らふくりそつの

めしかなたハ十二文字ヤノ万ハ十一字と

ゑゝ何をもなたのすほ也然と

かゝ文ゑゝ右のすほを能見へ

次ヨ形ヒて文合を又ら万へ

東小曲ロンキノ文合

かなたヌニッ地と云初二字用かあり

一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ

あ△くはを△らふくりそつの

也ヒ事ありとヲノうを字より詠の万へ

後の世のためとてあり記た

ヤノ万又あるる万と云かしら字よ的ら

ヤ△てを△つらねそをそ免エ

てゐ字次乃万へ成る世記さた

ヤアノ万三字目よあるる

ヤ△アとう△ふくめいちはてエ

ヤヲノ万二字目よあるる

ヤ△ヲちいをとうつウ

ヤヲハノ万一字目よ行る行くす万と云

ヤ△ヲハ△ヲみやいふしをヲ

ヤノ万ようよ引る

ヤ△ヒとヒもいさきゆきの

ヤアノ百ゝう引ゝ

ヤ(ア)みゝ(か)(ゝ)(ゝ)(や)(ま)(か)きの

ヤヨノ百ゝう引ゝ

ヤ(ヲ)ヲみ(ゝ)(ゝ)(ゝ)ヤ(ヲ)ヲち(ゝ)いを

みゝゝゝのハノ字ゝ於ノヤヲ〳〵ゝ返ゝ也ふ紀

ヤヲハノ百ゝう引ゝ

ヤ(ヲ)ヲハ(ゝ)(ゝ)(ゝ)(ゝ)(や)て(ゝ)(ゝ)不ゝ

右百字のゝ中ゝゝと云ゝ則文字ナ二文字ゝ

ふゝゝの不ハ百字の字ゝ掛ゝゝと添ナ二文字

に等ゝ中ゝゝ二ヲヨセノ人ハの名ゝ結ゝふゝ

を補ふゝゝ又次ゝゝ返ゝ返ゝ抜ゝて

三通りの新ゝゝと書ゝ也ゝ平仮の中

こくだかこふくとくとす法粗ゝ如拓よ
ゝ新し窯の位よう後意あれとおもひ
小さきゝくと新しけ〇下ハ考るく●下ハ
かろく新く元赤窯ゝて大きよ拓ふこと
ふれと拓ふよのきんゝ拓合の孝と添又
白切くゝ中あた准ゝウミ字ゝて引の長

短と考ゝ山ケハッ拓ふ宮ゝハ次の拓ふ付こ
て拓孝とゝ中て大小の万合とゝ白ゝ知ゝ人ゝ

形信梅　出

中、ス二一ス二一ス二一

いさゝきひくさハ常糸の源とふとしてもアラ
庭ふかアさ池をたゝへつゝ音ハ富と池中の
材傷ハたゝく月下の門に出入る人ハ牧くのヲ
袖とつゝねりすそを染くるめくる程ハ哀
くるの都ふりイイに見佛安法の寺く
歌道の路ハいやましにイイに日夜勤学よ



かとたゝすみ夏之伏の夜ゝにて秋きよりう
と中ゝうゝ間歳の松乃風一声の秋を俟
して五五上求りゝいのきとゝ也恨ようる
月ハ今ハ他所世の相を恨うイに乐小
陰仏の時苦も言ゝ苦れゝう

四村　寄て唱の乐

あんとうよふ　さやふアこれをこそふき
やふアこみうこの軍兵のうこよイイ
ナ　ハ　二十一　一十六
ナ　ハ　二十一　一十六
ナ　ハ　二十一　一十六

春日龍神　のりて

[illegible]

[illegible]

是は文字ふりの[illegible]

彩塙梅曲

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ヤアいさきらきらきひくきハ岩らくの
ア下、、、

ていのゆうせい一せいの秋をうたを
してヤラハくくはくいのきを見を
ちをいようたる月をそ下化し
しゆうせきうをはうヤラうか。
ゆんゆうの時せうもふとうを
うを

田村切　ようせうふ和

ヤアたうをを見よふきやをヤア
あをを見よふきやをヤうをかく
ヤアくんしゆうせきうヤラハ
せんしゆくんあのヤ光うをを
いくさくうよ起きゆうヤラハせん

めれをとふヤうしひのゆうそ
ヤヲハ者ゑれ矣をそえてヤそとと
ひそるせそ十の矣さきヤ行先あ
きとふりかうてヤきしんのうく
よそそきあつきヤアさとくく
矣さきよかうくきしんハ祓うに

うそきよそうりヤア行先そしそ
そしやはうとふしのそ法とく菜
祓ヤアそんあんれらかうを合きて
そそるらそんしゆくをうんうんそ
祓るらそんしゆくおほんみのヤア
かうときそそうろひよそうこヤア

ふんあんはゝつあきなり

春日詠　神　切のてうぎふ

ヤアアきうゝ女ゝ
アゆきハアきうしきさる乃
いきのちをあゝきてきてゝ

そのゝきを子ゝ
ゆゝてんよむゝ地よりてゝ
まりてちゝいをのゝしてうせみ
きアゝ

ちゃうちゃうおしゃ

ちゃうちゃう　二字目ちゃうと大ちゃうとちゃうあり

かぎちゃうちゃう三字目ちゃう大ちゃうとちゃうあり

但京ちゃうヨリトル

一ちゃうの形ちゃうハ切ちゃうの文字

ちゃうしゃうの拍合又ちゃうの大小文字

のちゃうとび又のびちゃうちゃう合ハ拍子

きちゃうちゃうを初ちゃうの後ちゃうもちゃう

ちゃうちゃうちゃうちゃうちゃうちゃうちゃうちゃう

形ちゃうちゃう拍子ちゃうちゃうちゃうちゃう集む

一地拍子の寸法定る時きゝ合はゝ者
云くも合ふ多の者ど拍子よ合た
かゝうゝひゝ合ハたと此者別ありて
耳立と並ぶと又越たぎだてよあど
云くと峰耳立ぬゝてよきれと
云ゝしの者ども不きゝ者ゝ者ゝ

拍子ゝ結たまゝゝ生ゝ者ゝし者法をよ
喜ふ不ゝ者ゝ能耳吟ゝて拍子を
ゝ知ゝ者ゝ者ゝ一ゝ乙ゝよ知ハゝゝだ
行ゝ者ゝ耳立た拍子ゝ者ゝよあゝざるを
ゝ者ゝ

○公方ゝ者ゝ文白知ハるや

## 内石番

### 言砂

ヤア伊くろよ為くもみ和奇のまそろ
と形くにや ○ ヤア陸くまり雲乃
素のちり矣にして ○ 海士のヤラ小船よ ○
悪テを排ひ。弱ろ多みハヤ。財経とりき。子秋



## 図村

雲も多まあしの ○ 面白やあろやふ ○
面白のくろくやあ〳〵世もろの ○ 月の村アを
抑 あ中てくちよい〳〵せ ○ ヤラハ河のくまち
京村立朱山て ○ ヤ雨あ〳〵主〳〵ふり
〳〵て。器神の ㊁ ふり山て器神の

## 熊野

ヤヲ佛のはまへよりんさ西して毎乃○よりと
ゆりゆりぜんぜ悲必滅の

## 班女

ふくのまん山ぶこんて

## 野朝



ふくもなく　こもなく　多く一しゅう
のくよりて

## 巻平

ヤヲふせきやぶらまくんとそ古角のさ
ぶるをくきそ　○　ヤヲ矢ひらきくう
てくちうふとふかくまとい

千さ

うき沼うそと思ひしるるを人表も

卒 於婆小町

あふきをむるき紀もなしヤアあり

くるしきひやむくるしやと○ひと

夜ふる表三表ゆ夜。ヤアあり表○ヤ





ものをうよおうそくるるとるそやアア晨よ

老 松

花の糸を尚しよ万岩ようまさをう

○ヤラ板そ文をさのむ木ありをとく

梅をハ○ヤ花も松をり移とそに

新 敬

ヤヲハ　ちくそうき世のまひこと移り変の
かハらぬ　すがり　○　家の芝乃芽の伸よ

## 錦木

ちくそうしてさむきころを　○　ヤア家さくら
切くてひさく

## 哀盛

△　ヤア手ちらめよ色しそらまし　又　ちくそう
ちる　○　井ちくくくむこころを

## 梅彦

ちくちる　○　ウヤアかるしらの
なりんさヤアはあとみさくきを忘ひの　○
ヤア晴うさき雲のを乃月の

とりあつ

△ヤヲハくめをもヲヲそてよ○

△ヤア老人と見へたるうちあり

宋女

△ヤア神まと思しめしたるとよなそひ○

柏子をそろへ多りとをひるかへしてて字

ようり次のヤヲノ方へ居る由引ス○、老うい有こ

△ヤア何かアニニふアアア

朝長

△ヤア某をいろうりうとあつてさてよ

ハルハ老も文よおしゆ巡りヤアノ方ノ心

あて三世十方うふ行地心

三井寺

ヤヲハ位やあらく原とさしそくのこゝろ
をゝ○、ゝやたきさうや反歌のかゝ
ヨヤヲハ月をしもよしやり乃雲をわけて与
○風きまき枝のゆの。ヤア三井寺よ。
○ほうそうあめをつまそなを

河ゝき

ヤヲハ火しやるこゝろ陸むりたるし色
て月のまゝ乃

夜名

ゝこゝゝゝ

小石川幸

梅うえ

ヤヲ　あくらのうさすいこいのゆま　○

ヤヲハいらゝ屋あをてハきうめうんの香

をしゝき　○　ヤヲハうちうんをかのゝちして

ふ○こそうゝくあきさくふ　又　ふきさくふ

うかあしゝ多のむひうしをさんけようさあを

ヤさん　○　ヤ梅うえさようそヤうくひをハ

蛾通

御書とこゝをうけこゝ屋うて　○　ヤヲハ

うゝみやゝくゝ仲ゝろ

出度

ヤアいとしやな故人のあんをうらいをきこえて
まつ君ハ　○　枝ハ鬢ひあつ〻の考よ。ヤヲ

## 楊貴妃

ヤヲハ　去しや　宮ひそ〻　少ときき

○　ヤ　神こも　寄るこゝろ　考ーやさ〻　後考ーや

## 藤戸



思ひ　平里を　申とも　○　ヤヲハ

「ヤ　ヤ　ヤ　ヤ　ヤ　ヤ　ヤ」

こゝやこの　家の　○　百年　一年ハ　馬ーて

## 玉乃井

ヤヲハ　こゝや　色やこゝろ　ゆるゆ

## 京清

ヤア　月白　こゝハ　月ヨ　むふ　白ひこゝる　色をハ　所

こゝ
ろあてちらすく捨し

杜若

沢をよりてかきたてゝ
のゆうあをハ〇ヤヲ人まろをんなりの
をとむをとこまの

安達原

いふくをあをををとはしき夜恨つゝし
のをとゝちまきを

麻

ぬをハおてくるまて法のあそよ〇
法のり法ふのさはるくほまのゆをの
夜を

ゆめ夢のヲゝを

## 後宮

ウ　ヤヲ　まさきの葛くるまてまさきてまて　○　ヤヲハ松浦

「大」　さよひめも我身をそこの岡さきと

## 松風

ゆきかよひしもあるそへく　○　ヤヲ

「大」　ゆきの下ふるうきみをそこへくや

## 誓願寺

ゆふ　ゆふ　ゆふ　

八〜月

月ゝひきのそやはしの死のヤア海山をそのまを
ゝ〜て〜〇ヤヲいちめいるを八ツ月をたをそく
さう〇浦風あうしの今をたうまつのあさ
あらしーとそ あすらーとそうよん

あしむ小町



ゝ〜ゝ〜〜〜

指子釜　○二十六

死ようの尿ゐ[illegible]ろて○ヤヲハ[illegible]

てゐ[illegible]ゐを書ち[illegible]ゐしをうとかさん

と[illegible]ゐ[illegible]枝ゐちんのちきりみ[illegible]りと

ゐ[illegible]○ゐひのみゐ[illegible]ゐを○

肉んゐ[illegible]ゐいちめなる変さゐの門

海士

ゐ[illegible]ゐたのゐち

鞍馬天狗

大天狗ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]

宝家

ゆ光もらつもまろしを

糧こ

ヤアみきときくやの名もさとりや秋うせ

の

教盛

さまりや恋しのあを上ちそせん

ほんの○蓬生法師ヤアうらもそを

夕顔

ウあのわや光もそをぬ行うりはかゆ家ひち

ある影の法師ゆみ

渡田川

△ヤアをたしおくらみゆとゑも　○　ヤハらさ
ほうくどしてたくさしそうの

△うきふ

ヤヲハりさのうさ枯やらのおりたきうゑ
○をしまらゐやうちゆう

吉日諸神

△ヤヲハとふとむさしはやアそし　○
△ヤヲハかくきんしうそうヤヲかくあんけん
うをりう

弘樹

△ヤアいさはくよりそんをはうあく

はるのこゝろ

江ロのきゝの山うゝ きいろと○うきよ
の夢をこゝのうちにおもおとろかぬ分の○
さそひ来る秋乃山ゆゝ分うさう
多の年

花うゝこゝ

ヤヲか桜ゆゝをハ光をうゝおき花うゝ

ヤアかゝゝ○ヤヲ(カケテ)ゆき物をまゝ物ゆきま
ゝひとう多ゝをかゝうゝ

源氏法書

法性乃空ゆいうゝきゝ木のうるの高
恭ハ法ゝゆ見ゝ乃花ちりぬ○ヤタうな
の夢ゝいのちを釈しゝ花むゝさ紀の雲

のむらさきなむらの産をハ○ヤ

さうき紫のさうして○ヤ只ちくかくハ

生死流ろうのちゑの庫を出てちゑ

んの○肉きさらはりとにゆう

ヤ梅うの○昔ちをゆとりとそみ

ヤアうゆ○ヤアタへすさかをもみあ

さかほの高い所のうをヤりうへ

山猪

ヤヲハ下化流生を表して金ほんさいは及

ほう○ヤうちをあをハ流生あをしも

生ほうをハ屋肉うもあり

富士之敍

ヤアそんらくあるこそとしても○ウ神あら
ぬ身をうらうえかたらむ○ヤアうしあの
うらうらやりとかしとしとおうらや

小しほ

あまをとりねる身のかとをきてもむ
なうらうをあけきてもむしそあうきを

まを○ヤアうらうしもむらさきの色よそ
色はえてしあり

夢カ

ヤ月はまくよるうるあるあをれらん
をうやくく○ヤア風乃あをうるあるを
堂生法生くもあきろおりろや

○ヤヲ拙者ハ因よりくゝ如きてゝをも
やちゝきをりの○ゆゝるのふすゝや

を せ 銭

ヤヲハ今あいうさきはをうる分やハ

通 小 町

ヤヲハ生のうゝ面なりをもあるいち
いうぬまてちゝ○ヤヲハさゝをほん
のゝれたとあるてゝうゝとゝるまと
は○ヤアひとヲヲかゝふゝゆうゆゆひ

又 ヤアひとヲヲかゝふゝゆうゆゆひ

天 鞍

又ゝゝゝ

しらあらはよみをき

浮舟

蓬てハ雪よりまさるをき枝の安うけて

三輪

らきりしへのそとかきいとみをき

めとりしをヤラハ三輪の

綿本

きんれのをきいたくそやうと免くそ

見ゆる○やうとおりまつ出さるくそ○

ころもの中めりおりもむ時

子種の糸乃○うとおりの出の中多よそ

くとふとうそ○松風の浦くるあ

のちの

雲林院

〇　ヤヲハ　ちさほ　ともたち

白髯

ヤ今ハ寐光ち〇ヤヲハ二佛来而ちさり移よ

盛久

ヤヲハ今ハ今ちアイイちよれ〇ヤア

八旬にしをあしいをとみしさをあよ

又　ヤアハ旬ちよ移ひめとみてさせあよ

敦盛

ヤア　春秋をちち発半ちふ者つのまく

ハヤヲ日月おそしといふち移を陶

ヤヲハいく世たりてア
エエ　ちと

殺生石

校よ　侶法師きうらんさくれ花よ

聖く　文

かたらあるゴリ光うハ我ひいらちみある○

さらとは紫ハそひりすもと名くあきわ
を親と子の○人くあうえよどうつき
ひとたま井

百姓

ヤヲハうりし　ふう村かたうかきと
人ちそひもちく○ヤヲハ老婆ん

[illegible]寺の○[illegible]
[illegible]いさ〳〵又ひろ[illegible]んだい○[illegible]
[illegible]ヤラカケテ[illegible]

自然居士

[illegible]
今[illegible]の[illegible]
[illegible]

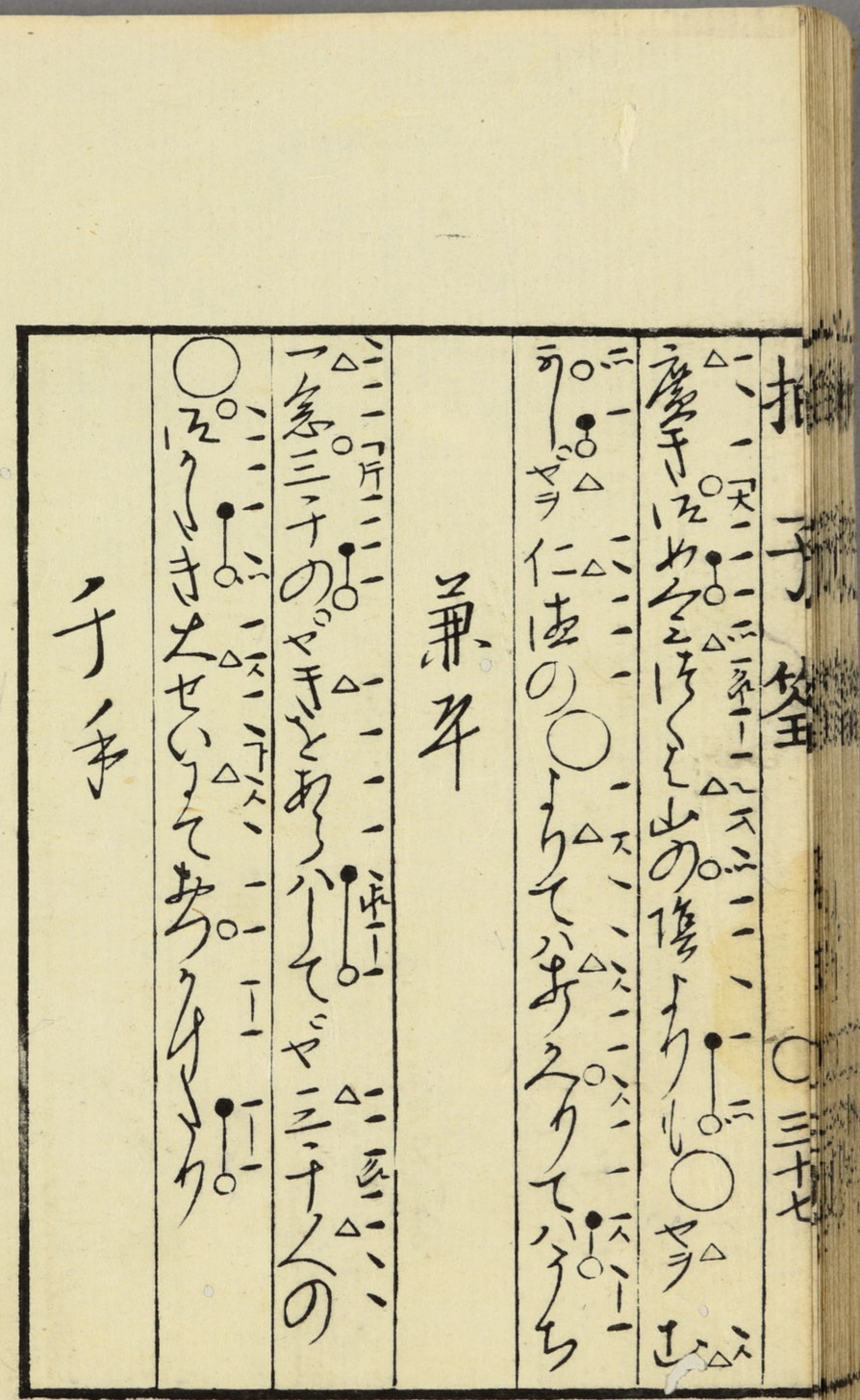
内百姓追考

姫女

[illegible]秋[illegible]の[illegible]
[illegible]○[illegible]の[illegible]ヤラ[illegible]

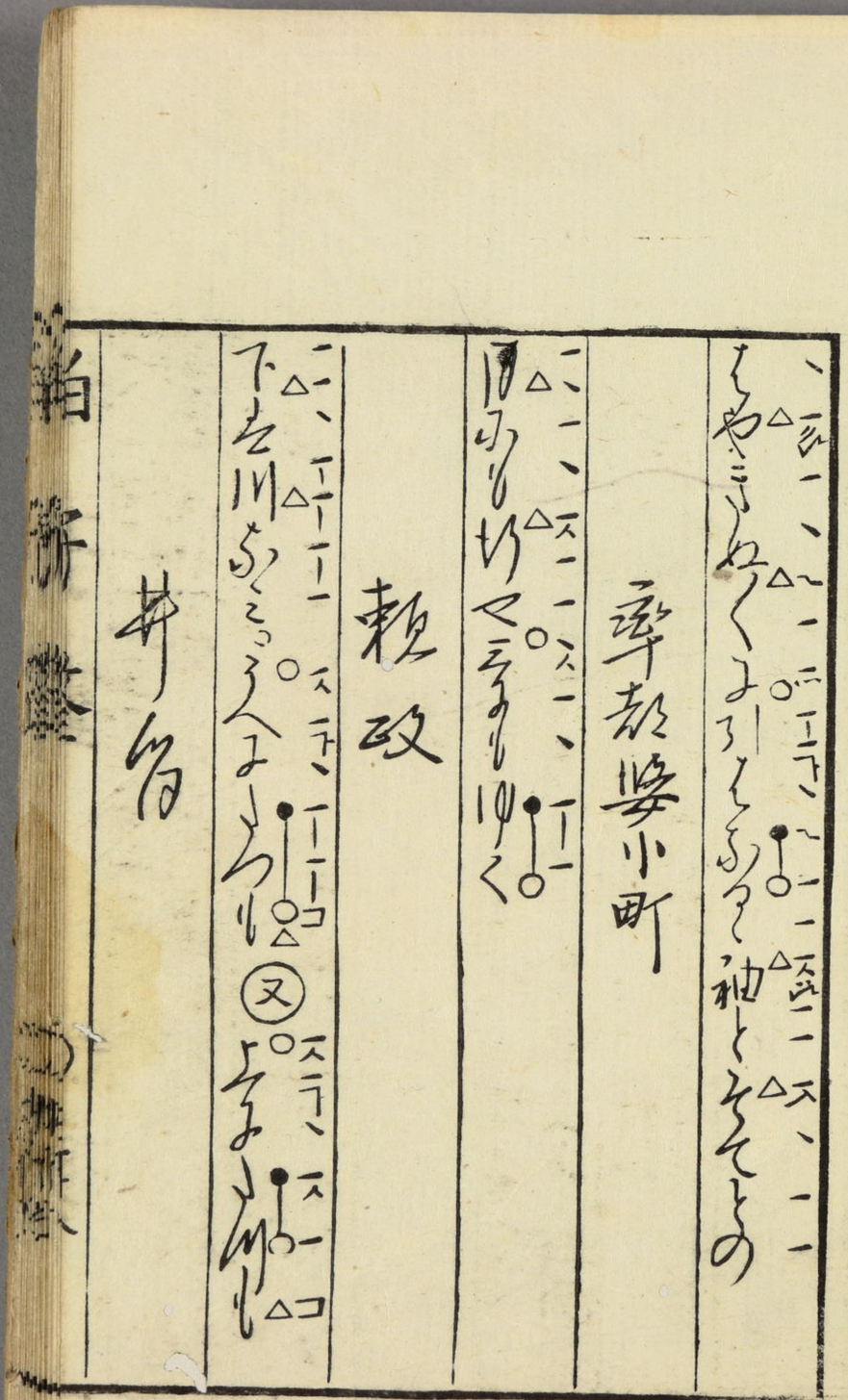
[illegible]や　[illegible]の[illegible]日一考[illegible]

雜説



兼年

千手



孝敬婆小町

頼政

井戸

寺井よりかへるゝ時そけやゝさきたるさくら

けき　山部赤人

○男もすゝりなりのやう

ふりひらの面影○寺の鐘しるのくゝ

○松浦やゝをたふの高ね

雜木

ゆふひをよりふるく



雨雲

ヤシロ　三笠山本のゝヤシロおもゝみきし

白樂天

ふりてふくゝをとゝきたる○あゝ山の雪

ゆゝ住よりの神

ゆくゝ雨の四神

## 玉盛

マヲハ沈て花の苔のマヲハ紫とあら
ひくれなゐの○たゑて口くてそ人名や

## 玉葛

音きも口く川の○行くとまりと白浪
みやアひくきのふくも○見名り四月

## 柏崎

ふゆ人ふかとこかしハ野人の○マヲ見三口
世ゑ三の十乃五○そしくちの屋のま
さと○ぞそちやうしうもるき

## 岩老

ひくの○新乃五ゑやまくのうき名よ

ヤシ　蔵も書られて○さも珍きに紀山
の井乃水　しけ多号日し

清盛

ふるうあ山まられと。ヤアうゝ山ハ○ヤア
一所ゝ。ヤア　まとうしふひちうゝをみし
て見ゝ車の。そこゝ。ヤシ　還幸ふし

そまれらあられふりし五松○ヤシ　源
氏のうゝとなれ多勢ゝ○ヤ舟ゝり
うゝ落塔の○通玄房。ヤア亟吸
も法ゝ。ヤシ　かゝゝ

采女

けゝ山よゝ。ヤア　ハ○ゝの月ゝ。ヤア

いきろ○やらハ　ちはるやんの

ヲヨヲヲヲ

蓬上

不動明王やアふまくさまんださくし

せんだん○けんもくやアはまそうるぬ

ヨヨヨ

ヤ感応ハ○ヤヨハたまくしゲ俳
ものそひとりヤア山路のもみぢの
みなりやすみ一ぢる秋ヤ〜○ヤヨハ
摩ヨ南一ノ雪ふハ

和歌物

新流妄語ものそ○ヤヨ物ものな

ーきヤヨ山路ヨ降きまるもの

## 梅枝

中ヨリ雨ノヨ雪ふりてキヨリワタル東面ヨ○
ヤヨ白きけ〜〜ヤヨ三梅井入合幸
○いうヨせん花ヨやヨ笑○ヤヨ赤ヨ色の
ヤヨ白くの○五一ヨあハ月ヨ面影ヤ

景清

ヤアはらあくまの者いかに哉

菊子花

そはうりむらの名主

安達原

ヤラあさましやそうかかるうかれ



名主

岩戸

恋恋如秋ヤラ今宵不見ヤラ

彩ふよヤラ十五夜月

一夢そ有紅葉

切戸

あり井戸かアらしや

相ぬ花葵まのてらすよ　又　相ぬ花葵
まのあらみ

後覚

ヤラ多多物とゞヤアあ男よ○ヤラ男生
たくたく

松風



ヤ影をふるウウふるうらのうらのうらのうらよ
ほとのもそゞヤラうしーたゞ思ふ恋ふるや
○ヤラ四ツ手のうらうらの松乃中きひら

西行撰

ヤラ所の名よ見る。ヤアくるゞの　又　ヤラ所の
「大ト、「ハ」「ハ」名よ見る。ヤアチなの○ヤラハ澎湃浪まて

「○かくとりまいねつゝ逆下り あ音

## 長服

ル恋ていも神そ多くち琴ふの也　又　恋ていも怨

まくあるふ身者　みちくウウウ人

## 屋敷

上ノ

ちちくよやふ心ちの松ちりきらて



○ヤラ所ろと汀よりよ也ハ。ヤラハ徒藤次

仮紙ゆ之の○ヤラ恨の落ち暁ふハ

## 梅川

ヤラハ見ちよまてふき時ち新と○ヤラハ

ゆゝせきとくく梅川よ

## 赤岩居士

ヤラハ〇ヤ〇ヤ〇ヤ

ヤ　ちはやぶる　神代も聞かず　竜田川
　　ハヤア　唐くれなゐに　水くくるとは

竜田

ヤ　ちはやぶる　神代も聞かず　竜田川
　　ハヤア　唐くれなゐに　水くくるとは

夕顔

ヤ　篠目の　ひとすぢ　清水　出るそく



ヤ　ちはやぶる　神の御代の　昔　たゞ　縄を　ひとすぢ　引きかけの
　　○　立寄れば　ヤア　取やすくひく

春は　弥生

ヤア　猪を　射　角と　ひとつ　を　○
　　徳又　地獄　ヤア　可　地獄　逢　強　○

引つ立くゝ やう年ゝ

江口

かけてのみ見るよりあだなる水の上に
なんとゝせぬ人をまつ身の
よりやすらはん○六条の廛の境よまつ人の
の船をはこぶ舟人○人とゝまるべきえ
しらぬ人○則子



花屋

やうちまさ
いと又中くゝやはらぎまさりて又
かくゝやアはなはだしきまさりて

源氏物語

ふりまさんとゝまるべきえ

山地

ヤラ伐木下〳〵て

留夫敷

ヤきゝるさゝみて

小塩

ヤアそゝふめゝの○花人車〳〵



ゝ〳〵ふの○ヤラふゝみ〳〵

芭蕉

ヤア生きゝるゝ山りの○ヤア錦牡のかゝ

ゝ○ヤラハさゝハ柳ゝみゝり花ハ○ヤラハ

今値ゝきはゝるゝ○ちゝゝたゝ

あゝゝゝゝ芭蕉の○ヤラ花原ゝゝ

袖の○　袖のしぶ　ぐるぐる　ぬきぬき

通小町

ひかる袖　ひかる　ふたゝび

ヤラ　ぬれまとうの　ぬれまとうの

天教

ヤラ　ぬれまとうの　ぬれまとうの

○

ヤア　柳　ふとる　ぐるぐる

女郎花

ヤラ　きえぬ　たまアアの　ぬれ　○

ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ

ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ

ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ

ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ

ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ

ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ

ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ

ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ

ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ

ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ

ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ

こゝろ八こゝ〇ヤラあまるこそやらふうり
きう又形まる果そやらふかり弦

二人静

ヤラ神のこゝ〇ゝ所河のたき〇ヤラ
ゆてのきやゝて〇ヤアゆと又ヤラ也
あやゝん〇ヤアゆと〇ゆゝゝ浮

夢ふゝひたれゝて〇ゝゝゝ男ゝ神ゝて山ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ヤラ独ぬるり　伊一号人はいせて

豎久

ヤ赤学てハぶり　名り　又　ヤア赤学てと

ぶり名り○ふ汝る命よ

佛原

ヤ物の〳〵久名法の場人法のまひ〳〵の　又



夏祇

ヤ山ぶしよりこひの緑も○ヤラ不とり

つま〳〵舟ゑ花よりこと

郭鄭

ヤ野〳〵ひさしるの月○百手の

歌ハ○ヤ

ゆ

堅言

多居の二枝より○

杜の下葉杜の

○ヤ出


外百二十冊
毎年蔵出 初夏 翻出 單弁題 ニテワキツヒ門者の
ゝ引まと記を
猫吟小謡 近刻 仮用謡 金一冊
謡秘伝抄 金一冊 成田山謡 金一冊
戯笛変雅 金二冊 外謡字引 絶来
安政乙未年十一月
心斎橋伝る所 柳原屋伝兵衛
竹腰世経所
京三条屋善助
浪華書林